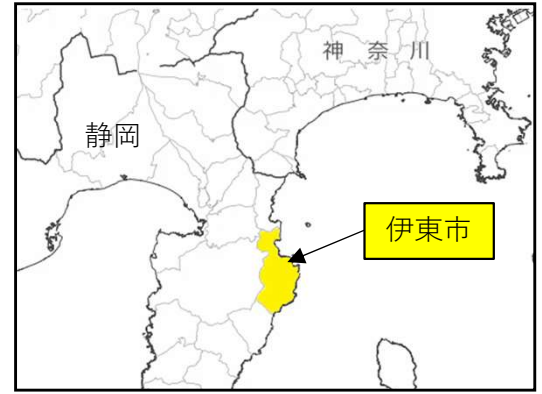


伊豆東部火山群・伊東市広域避難計画 の策定について



■ 計画の概要

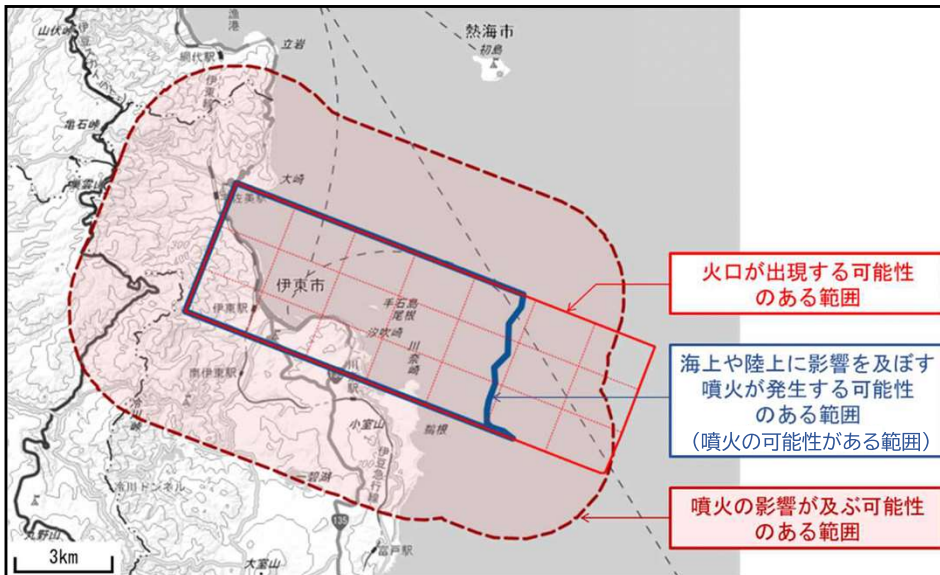
平成27年度に策定された旧避難計画は、避難対象を「噴火の可能性のある範囲」の周囲から2.0kmとし、対象地区の住民は徒歩で噴火影響範囲外に脱出する方針であった。

平成30年10月には伊豆東部火山群防災協議会において、噴火影響範囲を噴火の可能性のある範囲の周囲から陸域3.5km、海域3.0kmとする修正が承認された。これは、国の「火山防災マップ作成指針」に従い、また過去の噴火において火口から3.5km付近まで飛翔したと見られる噴石が実際に発見されたことによる。

噴火影響範囲の拡大により避難対象地区は市内15行政区のうち11行政区、避難者数は最大46,152人となり、徒歩による市内避難が困難となったため、今回策定された広域避難計画は、自家用車又は公共交通機関を使用して、行政区ごとに割り当てられた近隣の受入先市町に避難することを定めている。避難対象者は一般住民、避難行動要支援者、観光客等をそれぞれ自家用車の有無で計6つに分け、避難開始タイミング等を検討するに当たってはこの区分に基づき避難シミュレーションを実施した。

火山防災情報等	避難対象者の区分	避難手段	備考
火山の状況に関する解説情報（臨時）	観光客等（自家用車有り・無し）	各々の交通手段	※主たる山体を持たない伊豆東部火山群では、噴火警戒レベルが上昇する過程でレベル2、3は発表されない。（1→4 or 5）
噴火警戒レベル4	一般住民（自家用車無し）	公共交通機関	
	避難行動要支援者（自家用車有り・無し）	避難支援者の自家用車	
噴火警戒レベル5	一般住民（自家用車有り）	自家用車	

■ 噴火影響範囲と避難対象地区



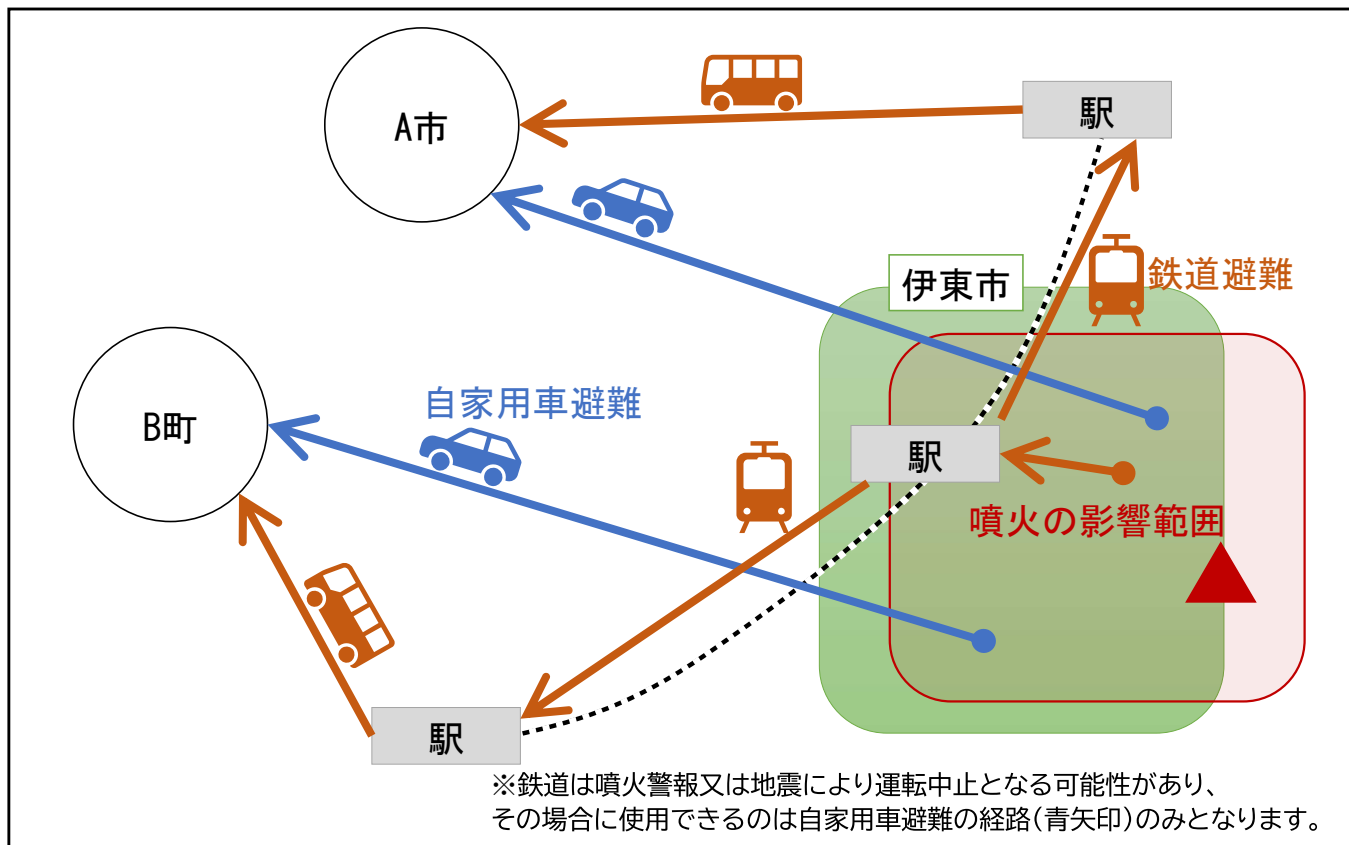
■ 避難方針

避難先となる受入先市町については、1行政区に対し1市町をあらかじめ割り当て、避難計画及び避難シミュレーションにおいては上図の「噴火の影響が及ぶ可能性のある範囲」全域を避難対象と定めている。なお、火口の出現予測地点が絞り込めていた場合、避難対象が一部の地区に限られる可能性があるが、その場合も基本的に避難先は変更しない。

また、自家用車による避難はまず各市町に設定された「避難経路所」を目指し、そこで受入先市町職員から行先の避難所を案内される方式とした。これにより、避難者が把握しなければならない避難先に関する情報を最小限に抑え、混乱を防ぐことができる。

公共交通機関による避難は、各市町の設定された最寄り駅まで鉄道で向かい、そこから避難所への直通バスに乗り換える（直通バスは県がバス協会と締結している協定に基づき、県に手配を依頼）。

■ 広域避難イメージ



■ 伊豆東部火山群・伊東市広域避難計画（伊東市ホームページ）

https://www.city.ito.shizuoka.jp/gyosei/bosai_anzen/bosaijoho/12566.html

伊東市ホームページから、計画書の本編と概要版をダウンロードできます。 →



? 伊豆東部火山群とは?

伊豆東部火山群は、伊豆半島東部の陸域に位置する火山群「東伊豆単成火山群」と、その東方の海域に位置する海底火山群「東伊豆沖海底火山群」からなる単成火山群

? 単成火山とは?

単成火山は、富士山のように同じ火口から何回も噴火して大きな山を作る火山とは異なり、主たる山体を持たず、一度噴火すると再び同じ場所から噴火をしないという変わった性質を持つ火山。国内にある活火山としての単成火山群は、

- ・伊豆東部火山群（静岡県）
- ・阿武火山群（山口県）
- ・福江火山群（長崎県）

の3つしか存在せず、特に、火口が出現し得る範囲に人が居住しているのは伊豆東部火山群のみ

伊豆東部火山群・伊東市広域避難計画



令和6年2月
伊豆東部火山群防災協議会

【問合せ先】

静岡県 伊東市 危機対策課
TEL：0557-32-1362
E-mail：kikitaisaku@city.ito.lg.jp

事務局（鹿児島市危機管理課）
TEL：099-216-1513
E-mail：kiki-kazan@city.kagoshima.lg.jp